

# 月刊しばうら

## 2015年 7月号

### 大動物事業部

#### < 5月の相場動向 >

5月の牛枝肉相場は、和牛が前月対比で小幅安となり、交雑種・乳牛去勢がともに上昇の相場展開となった。今年の大連休は好天に恵まれたこともあり消費は順調で、牛肉需要も堅調だった。連休明けの在庫補充の動きから前半は堅調な相場動向を保ったが、中旬以降は末端の消費が鈍化し、軟調な展開となった。和牛では量販店の主力商品であるA3等級がほぼ前月並を維持したが、特に上物規格の高単価品であるロイン系在庫が増加傾向にあり、和牛の価格形成に影響を与えた。交雑種・乳牛去勢については値ごろ感のある商材としての需要が根強く、一段高の相場展開となった。

#### < 5月牛枝肉月間価格 >

和牛去勢	前年同月比	前月比
A5 2,453円	112.3%	98.9%
A4 2,287円	121.4%	99.0%
A3 2,164円	126.6%	100.0%
A2 1,999円	127.5%	99.0%
交雑去勢		
B4 1,748円	129.2%	102.8%
B3 1,674円	133.2%	103.4%
B2 1,599円	139.0%	104.9%
乳牛去勢		
B3 上場なし		
B2 1,191円	144.0%	129.7%

#### < 7月の牛肉輸入量予測 >

輸入牛肉通関量		5月	前年同月	前年同月比
フローズン	豪州	15,358	11,859	129.5%
	米国	8,701	8,331	104.4%
	その他	2,191	2,651	82.6%
	合計	26,250	22,841	114.9%
チルド	豪州	10,226	9,153	111.7%
	米国	4,960	8,150	60.9%
	その他	718	813	88.3%
	合計	15,904	18,116	87.8%

単位：t 出典：財務省貿易統計

4月からの豪州産フローズンの増加は、新年度からFTA 2年目の関税率適用の影響と見ている。農畜産振興機構の牛肉輸入予測では、7月の輸入量は4万3,800t（前年同月比6.3%減）のうちチルドが1万8,300t（同11.4%減）、フローズンが2万5,500t（同2.1%減）と予測している。

#### < 7月の全国出荷頭数予測 >

農林水産省が発表した食肉流通統計によると、4月の全国と畜頭数は和牛が4.4%減の4万2,219頭、交雑種が6.5%減の1万9,262頭、乳牛去勢が3.6%減の1万7,836頭で、全体では3.7%減の9万5,245頭であった。平年比で見ると6.6%減で国産牛肉の品不足感が顕著であることがうかがえる。農畜産業振興機構の予測によると、7月の全国の肉牛

と畜頭数は前年比で1.2%減の10万1,000頭の見通し。出荷頭数の内訳をみると和牛が0.8%増の4万7,000頭、交雑種は7.4%減の1万8,600頭、乳牛種は前年並みの3万3,700頭の見込み。東京食肉市場の7月と畜予定頭数は、22日稼働で8,350頭前後の見込みである。

#### < 7月の牛枝肉価格予想 >

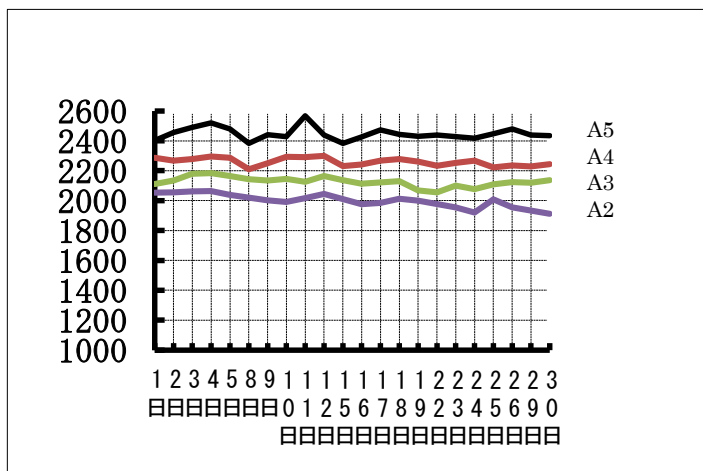
7月の牛枝肉相場は、全国的な出回り頭数不足が続く中、お中元ギフト用の引き合いや、月末には行楽需要や旧盆手当が本格化するなどで牛肉需要が見込める時期で期待される。外食についても引き続き順調な動きが見込まれ、相場動向には好材料となることが予想される。

しかし、消費者の実質賃金は低迷しており末端需要は頭打ちであることや、梅雨時期であることなどから極端な上げは考えにくい。

これらを踏まえると、高級和牛のA5等級については保合で3・4等級を中心とした相場展開になると予想される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400~2,500	B4	1,700~1,800
A4	2,250~2,350	B3	1,600~1,700
A3	2,050~2,150	B2	1,500~1,600
A2	1,950~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,150~1,200		
B2	1,050~1,150		

#### 和牛去勢日別相場表（6月度）



### 小動物事業部

農林水産省が発表した食肉流通統計によると、5月の全国と畜は124万7,006頭（前年同月比94.8%）となり前年より減少した。また、5月分の豚肉通関実績も、チルド、フローズン共に前年より減少し、6万9,052t（前年同月比95.3%）となった。このうちチルドは2万5,530t（同94.4%）、国別では米国が1万5,163t（同88.1%）、カナダは9,346t（同108.2%）、メキシコが1,018t（同85.4%）となった。フローズンは、4万3,521t（同95.8%）、デンマークが8,457t（同76.7%）、米国が1万1208トン（同135.6%）、カナダが4,277t（同84.4%）、メキシコが5,273t（同143.5%）となった。

#### < 6月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	54,100	558	543	843
2日	59,100	581	550	680
3日	52,800	587	551	633
4日	60,500	563	539	762
5日	57,900	562	542	791

上旬の全国と畜頭数は前年同様6万頭を割り込み、5万頭前半の頭数で、当市場の上場頭数も平均740頭とほぼ前年並みの上場頭数であった。

このような状況の中、ロースの動きが冷蔵、冷凍品ともに堅調だった為、上物価格は550~580円と価格も上昇してきた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
8日	58,800	564	536	739
9日	59,900	578	553	844
10日	55,200	600	574	618
11日	59,600	584	558	688
12日	57,700	596	560	851
15日	57,600	598	563	745
16日	61,400	614	588	747
17日	53,900	607	580	790
18日	61,100	606	572	779
19日	60,200	604	578	977

中旬の全国と畜頭数も6万頭を割り込み、平均5万8,500頭で、当市場は、平均で780頭の上場となり前年並みであった。

国産、輸入品ともにロースの引き合いが強く、モモの動きも活発になった反面、バラなどの中間部位の荷動きは鈍かったが、上場頭数が少なかった事から上物価格560~600円の推移となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	59,200	607	583	725
23日	59,900	605	584	894
24日	57,000	602	567	745
25日	60,700	599	575	773
26日	57,900	593	568	970
29日	60,300	595	572	608
30日	61,300	616	591	657

下旬の全国と畜頭数も6万頭を割り込んだ。当市場も平均760頭と前年並みの上場となった。

引き続き国産品の動きが鈍いものの、全国的に出荷頭数も少ないことから堅調に推移して上物価格590~610円の推移となった。

#### < 7月の豚枝肉相場見通し >

農林水産省による7月の全国と畜頭数は、127万3,000頭（前年同月比95.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約5万8,000頭である。当市場の7月の集荷予定頭数は約1万5,500頭となっており、一日当たりでは約700頭の見込みである。

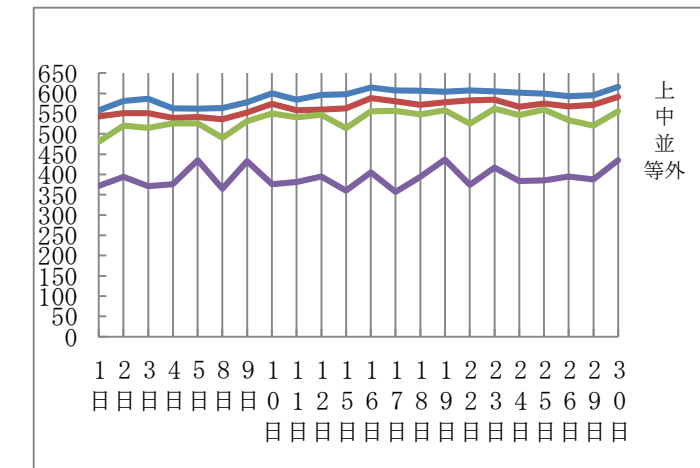
一方、農畜産業振興機構による7月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万2,000t（前年同月比69.2%）の予測となっている。内訳はチルドが2万4,300t（同98.1%）、フローズンは3万7,700t（同58.1%）である。

また、4月末の豚肉推定在庫量は、国産品が1万6,726トン（前年同月比83.6%）、輸入は17万1,183t（同118.7%）となり合計18万7,909t（同110.0%）となった。推定出回り量は13万8,720t（前年比94.5%）で、2か月ぶりに前年を下回った。うち国産品は7万4,884t（同96.1%）輸入品は6

万3,836t（同92.6%）とともに前年を下回った。国内生産量は7万4,978t（同99.6%）と7か月連続で前年を下回り、輸入量は7万3,092t（同100.5%）と前年を上回った。

このように、7月は6月同様に全国と畜が少ないこと、また、輸入物は現地高、円安の影響などでタイトな状況が続くと予測されることから、上旬は上物価格600円を超える相場となるものの、中旬以降は夏休みで学校給食の需要がなくなり相場が落ち着くとみられる。よって、7月の加重平均は上物590円前後、中物560円前後と堅調な相場を予測する。

#### 豚日別相場表（6月度）



#### 出荷者の皆様へ

**PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。**

**東京都港区港南2-7-19  
東京食肉市場株式会社  
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127  
URL <http://www.tmmc.co.jp/>**